

百五十周年記念事業

本年度 創立百五十周年を迎えます。昭和四十八年に行った「百周年記念事業」や平成十七年に行った「新校舎竣工記念式典」のような大規模事業は行いませんが、原井小では次のような記念事業を計画しています。

詳細については後日 お知らせいたしますが、将来「創立二百周年」を担う子どもたちにとつて、記憶に残る記念事業にしていきたいと考えています。

一 期日 十月二十二日(日)

二 内容(午前中)

① 学習公開

② スタインウェイピアノコンサート
(本校児童から希望者を募り実施)

③ 記念講演会
(浜田市長 久保田章一様に依頼)

④ 学校開放

新校舎には「旧片庭校舎」から受け継いだ思いや願いの詰まった様々な品々が展示されています。

この機会に ぜひ 新(現)校舎にお越しくださいと思っております。卒業生の皆様 地域や旧職員の皆様お待ちしております。

未来の原井校

■「原井小学校百年史」より
五十年前に書かれた作文です。

五年一組 山崎悦子

私が原井校を卒業し、五十年たつと、原井校はどうなっているだろう。

私が前に見たまんがの本に、先生が放送室からテレビで生徒に勉強を教えているところがあった。先生の方は、教えるのを必死でやっている。生徒がどのように勉強しているのかわからないのに……。だから生徒の方は、いねむりをしていても、まんがを読んでもおこられないのでもいい気になっている。

未来の原井校は、建物もりっぱですべてが自動的になり、給食、そうじから授業まで、あまり人の手を使わないですむようになるかもしれない。たしかに世の中は進歩し、便利になるだろう。便利という点では、原井校もそうなってほしい。

だが、それでいいのだろうか。鉄きんコンクリートの大きな建物の中で便利な生活をし、らくな授業を受けているだけなんて……。そんなことならきつと、「あの学校は外見がいいだけで、中味はからっぽだ。」と言われるにちがいない。そんなのはいやだ。

学校は、建物のよしわるしではまきまらない。大切なのは、中にすむ生徒の心だと思ふ。私達がバレーをして遊んでいるとボールがみぞに落ちた。六年の女子の人がボールを拾ってくれた。人によっては、けってわざと、遠くにやってしまう人もいる。たかがボールでも、けるのと拾われるのでは大きなちがいがあふ。拾ってくれた六年の人の心には親切とやさしさがある。助け合ふという心がある。これからの学校には、それらがますます必要になってくると思ふ。その六年生は、この親切、やさしさ、助け合ふという心を教えてくれた。

こんど入学してくる下級生にも同じことを教えてやろう。そんな人が一人でも二人でもふえると、この原井校がどんなに便利で機械化されても、その中にすむ生徒の心はあんなにまんがのようにあれはたしたものにはならないと思ふ。私は、設備がとこのいい、生徒の心がしゃんとした未来の原井校をゆめみている。

お知らせとお願い

■六月一日(木)より

「留守番電話対応」へ

保護者の皆様には 文書にてお伝えしておりますが、働き方改革の一環として六月一日より 市内の小中学校において「留守番電話対応」を開始する方針が市教委より示されました。

小学校では夕方 十七時三十分から翌朝 七時三十分まで 職員が職員室にいる場合でも「留守番電話対応」になります旨、ご了承願います。

ただし 欠席した児童への連絡など学校から 電話連絡をさせていただくことはあります。

なお 電話ではなく、この時間帯に来校された場合の対応なども 示されていくものと思われまふ。

「留守番電話対応」を始めることで明確になってくる課題もあろうかと思ひますが、地域の皆様にもご理解ご協力をお願いすることになります。ご承知願います。